

令和 6 年 6 月 19 日現在

機関番号：64401

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K01181

研究課題名（和文）アフリカの無形文化を対象にした民族誌映画の制作による応用映像人類学的研究

研究課題名（英文）The Applied Anthropological Study on the Ethnographic Filmmaking on Intangible Cultures in Africa

研究代表者

川瀬 慈（Kawase, Itsushi）

国立民族学博物館・学術資源研究開発センター・准教授

研究者番号：30633854

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、特にエチオピア北部を中心に音楽をなりわいとする職能集団を対象に民族誌映画を制作し、その公開の実践を通して、現地社会の人々の声を反映させた、応用映像人類学の探求を行った。アフリカの無形文化を対象にした映像記録に携わる人類学者、民族音楽学者や、国際機関の関係者と研究交流を重ね、アフリカ無形文化の記録をめぐる課題を検討した。以上の研究成果は、学術映画祭の審査を通過した短編、長編の映画作品、及び3冊の単著と2冊の編著、複数の論文や口頭発表において公表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

無形文化を対象とした映画の制作方法論のみならず、様々な社会的なコンテキストにおいて作品が公開されることによって引き起こされた議論について複数の著作において報告できたことに、学術的な意義があったといえる。また、研究テーマに関連する著作の執筆・刊行や、制作したアフリカの芸能や儀礼をテーマにした民族誌映画の発表を、オンライン上や、国内外の映画祭で積極的に行い、研究成果を広く社会に問うことができたことにも大きな意義があったと考える。

研究成果の概要（英文）：This study explored applied visual anthropology, reflecting the voices of local communities through the practice of making and showing ethnographic films about professional groups whose livelihoods depend on music, particularly in northern Ethiopia. Through research exchanges with anthropologists and ethnomusicologists involved in the film documentation of African intangible cultures, as well as with officials from international organisations, the issues surrounding the documentation of African intangible cultures were explored. The results of the above research have been published in short and feature-length films screened at academic film festivals, in three monographs and two edited volumes, and in several articles and oral presentations.

研究分野：映像人類学

キーワード：映像人類学 無形文化 民族誌映画 アフリカ 音楽芸能

1. 研究開始当初の背景

長年にわたって世界遺産の保護に取り組んでいる UNESCO は、2006 年に「無形文化遺産の保護に関する条約」を発効した。その条約の目的には、「関係のある社会、集団および個人の無形文化遺産を尊重すること」という項目が掲げられている。しかし、多くの地域において、この目的を実現するために必要な調査や議論が十分に行われていない現状がある。さらに、無形文化と一言で言っても、それに対する認識、さらに調査や記録のアプローチのありかたに関しては、研究者と UNESCO、それらを支える地域社会のコミュニティや当事者のあいだにおいて、隔たりがあることは確かである。特に、アフリカにおいては、無形文化の担い手と地域社会との関係や地域住民の文化的価値観を踏まえたうえでの、音楽・芸能の保全・継承の方法に関する十分な議論と実践が行われてきたとはいえない。

2. 研究の目的

以上の問題意識を踏まえて本研究では、研究者、被調査者間の議論を重ね、その議論を民族誌映画の共同制作に反映させる創造的な映像人類学研究のモデルケースを構築する。研究者と研究対象の人々による民族誌映画の共同制作は、ジャン・ルーシュによって提唱された「共有人類学」のなかで試みられてきた。研究対象となる人々が自らの地域社会の文化をどのようにとらえているのかという視点を映画に組み込み、研究対象を複数の視点からとらえ、分析に厚みを加えることを目指すものである。本研究では、申請者と研究対象の人々、そして地域社会との双方向的なコミュニケーションに基づき、現地の人々と共に考え、築き上げる民族誌映画制作を行うという、応用映像人類学研究のモデルを提示する点に意義がある。映像を活用する本研究は、対象となる人々を撮影調査の中に取り込み、自らの文化について考える契機を与えうる。そのため本研究は、現地社会の人々による主体的な音楽・芸能の継承活動を活性化させる可能性も持ち合わせている。さらに本研究は、無形文化を対象にした映画制作に関する問題意識の共有と情報交換を研究機関、現地行政、国際機関の枠組みを超えて促進させると考えられる。

3. 研究の方法

1) 文化の担い手（記録される側、記録を活用する側）との共同映画制作：様々な場におけるエチオピアの音楽職能集団アズマリのパフォーマンスを映像記録し、その後で被写体となったアズマリにその映像を見てもらい、調査者の解釈と、アズマリの見解を比較しつつ、彼らとの対話を中心に分析を行う。そこでは、パフォーマンスの場における、アズマリ・聴衆間の相互作用の理解、を目的としたインタビューを行い、聴衆がアズマリに何をもとめているのか、という点に関するアズマリ理解のしかたを明らかにする。同時に、聴衆の側にもインタビューを行い、聴衆がさまざまな場面で、どのような期待をアズマリに投げかけているのかという点を明らかにする。さらに、アズマリのパフォーマンス時における「発声・身ぶり・伴奏」にも着目し、歌唱の内容とそれらの対応関係を探る。また、パフォーマンスが行われる社会背景がいかにかアズマリ歌唱内容に影響を与えていくか、という点に留意し、社会背景に則したパフォーマンスのありかたについてのアズマリ“ねらい”を、映像を交え本人たちと議論し、分析する。さらに、音楽・芸能を支える技法や知恵の伝承、望ましい文化表象の在り方をテーマにした討論を実施する。

2) 研究者、映像作家を対象とした調査研究：エチオピアの無形文化を対象にした映画制作に携わった人類学者や映像作家にインタビューを行い、無形文化を対象とした映画制作の目的や、撮影・編集における技術的・倫理的な問題点を明らかにする。さらに、個々の作品の博物館、アーカイブ等での公表と活用状況を調べる。国内外の研究者にインタビューを行い、無形文化を対象とした映画の制作目的、撮影・編集における技術的・美的側面、問題点等を明らかにする。さらに、個々の作品の博物館、メディア・アーカイブ等での公表・活用や現地社会への還元状況を調べ、比較検討する。

3) 国際機関、行政機関を対象とした調査研究：アフリカの無形文化遺産保護のプロジェクトを推進する国際機関、行政機関 (UNESCO、エチオピア文化遺産調査局) において映像データの管理、分類に関する調査、関連資料 (計画書や報告書) の収集、聞き取り調査を行う。ある無形文化が人類共有の「文化遺産」として認定されるプロセスやポリティクスを、国際的な無形文化遺産保護の現場の調査や国際世論、学術的な議論の動向を検討することによって明らかにする。

4. 研究成果

新型コロナウイルスの蔓延によるパンデミックの影響のため、アフリカ現地でのフィールドワークの予定に変更を余儀なくされることはあったものの、当初の研究計画に掲げていた、文化の担い手（記録される側、記録を活用する側）との共同映画制作、研究者、映像作家を対象とした調査研究はほぼ達成できたと考える。本研究期間中、エチオピア北部を中心に音楽をなりわいとすする世襲の職能集団アズマリを対象に民族誌映画『吟遊詩人一声の饗宴』、及び本作の長編バージョン『アズマリ―声の饗宴―』（英語字幕版：Az mari-The Fest of Voices-）を制作することができた。『吟遊詩人一声の饗宴―』は2022年の東京ドキュメンタリー映画祭の人類学・民俗学部門の準グランプリを受賞し、高い社会的な評価を得た。また、本長編のなかでは、被写体や無形文化を支える地域社会の人々と報告者の現地語（アムハラ語）による議論を作中に提示する工夫を行った。本作は、英国王立人類学協会・ロンドン大学ゴールドスミス校共催による上映会（2024年1月）、マンチェスター大学での国際シンポジウム（2024年2月）、さらにはゲッティンゲン国際民族誌映画祭（2024年5月）において上映され、今後も世界各地において、公開を重ねていく予定である。アフリカの無形文化を対象にした映像記録に携わる人類学者、民族音楽学者や映像作家、国際機関の関係者との研究交流を経て、アフリカ無形文化の記録をめぐる課題を検討した。以上の研究成果は『エチオピア高原の吟遊詩人うたに生きる者たち』（音楽之友社、2020年、第43回サントリー学芸賞、第11回梅棹忠夫・山と探検文学賞）を含む3冊の単著と『拡張するイメージ——人類学とアートの境界なき探究』（亜紀書房、2023年）を含む2冊の編著、さらには“ETHNOGRAPHIC FILMMAKING IN ETHIOPIA, the Approach and the Film Reception”を含む複数の論文や口頭発表において公表した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 2件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 川瀬 慈	4. 巻 99
2. 論文標題 東京におけるエチオピア正教会の祈り	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 アステイオン	6. 最初と最後の頁 4-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川瀬 慈	4. 巻 6
2. 論文標題 映像実践の創造的なプラットフォームづくりにむけて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 デジタルアーカイブ学会誌	6. 最初と最後の頁 77～81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Itsushi Kawase	4. 巻 102
2. 論文標題 Exploring the Creative Use of Germany's Encyclopedia Cinematographica	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Senri Ethnological Studies	6. 最初と最後の頁 157-164
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 Itsushi Kawase	4. 巻 1
2. 論文標題 Methodology of Ethnographic Filmmaking and voices in the "field"	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Intangible Heritage and Audio-visual Archive	6. 最初と最後の頁 58-68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計12件（うち招待講演 6件 / うち国際学会 5件）

1. 発表者名 川瀬 慈
2. 発表標題 吟遊詩人 - 声の饗宴 -
3. 学会等名 日本ナイルエチオピア学会第32回研究大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Itsushi Kawase
2. 発表標題 Trajectory: Expanding the Range Limitations of Scholarship in Audio Visual Practice
3. 学会等名 Futures of Academic Research and Art (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 川瀬 慈
2. 発表標題 詩想、周遊、土地との交感
3. 学会等名 シンポジウム「表現と知を編み直す」（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 川瀬 慈
2. 発表標題 聖なるものを撮るーエチオピア、ザール儀礼の映像記録ー
3. 学会等名 写真発明200年記念企画ワークショップ 第2弾「研究者のための撮影術3 アウラの行方」（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 川瀬 慈
2. 発表標題 エチオピア都市の音楽職能集団の歌に描き出される世界情勢
3. 学会等名 第43回サントリー文化財団フォーラム（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Itsushi Kawase, Yushi Yanohara
2. 発表標題 “ Monogatari, the Light ” Traveling to the Source of Pulsing Images
3. 学会等名 International Conference & Workshop Art/Research/Practice 2021（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Itsushi Kawase, Snezana Stankovic, Florian Grundmueller, Caroline Contentin, Anne Huffschmid, Rui Vilela
2. 発表標題 Showing the Invisible
3. 学会等名 Breaking the rules? Power, participation and transgression, The International Society for Ethnology and Folklore 2021, 15th Congress（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Itsushi Kawase
2. 発表標題 Anthropological Knowledge and Filmmaking
3. 学会等名 In Conversation with Akitsugu Maebayashi & James Gibson, Institute of Advanced Media Arts and Sciences（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Itsushi Kawase
2. 発表標題 Modes of Visual Storytelling in Anthropology
3. 学会等名 Critical Approaches to Visual Anthropology (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川瀬 慈
2. 発表標題 アフリカ無形文化の記録をめぐる課題 - エチオピア音楽・芸能の映像人類学研究の事例より -
3. 学会等名 文化遺産国際協力コンソーシアム 第15回アフリカ分科会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Itsushi Kawase
2. 発表標題 Ethiopian Studies Through Image, Sound and Beyond: Perspectives from Ethnographic Films
3. 学会等名 International Conference of Ethiopian Studies (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Itsushi Kawase
2. 発表標題 Methodology of Ethnographic Filmmaking and voices in the "field"
3. 学会等名 Intangible Heritage and Audio-visual Archive (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計9件

1. 著者名 Itsushi Kawase (author), Jeffrey Johnson (translator)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Awai Books	5. 総ページ数 170
3. 書名 Mischief of the Gods: Tales from the Ethiopian Streets	

1. 著者名 藤田 瑞穂、川瀬 慈、村津 蘭	4. 発行年 2023年
2. 出版社 亜紀書房	5. 総ページ数 404
3. 書名 拡張するイメージ	

1. 著者名 野澤 豊一、川瀬 慈	4. 発行年 2021年
2. 出版社 アルテスパブリッシング	5. 総ページ数 312
3. 書名 音楽の未明からの思考	

1. 著者名 川瀬慈	4. 発行年 2021年
2. 出版社 本屋B&B デジタルリトルプレス	5. 総ページ数 68
3. 書名 私の中の野生	

1. 著者名 川瀬慈	4. 発行年 2021年
2. 出版社 インスクリプト	5. 総ページ数 118
3. 書名 叡智の鳥	

1. 著者名 川瀬 慈	4. 発行年 2020年
2. 出版社 株式会社音楽之友社	5. 総ページ数 252
3. 書名 エチオピア高原の吟遊詩人	

1. 著者名 川瀬慈	4. 発行年 2019年
2. 出版社 森話社	5. 総ページ数 416
3. 書名 「神々との終わりなきインプロヴィゼーション」 『ジャン・ルーシュ - 映像人類学の越境者』 千葉文夫・金子遊編	

1. 著者名 川瀬慈（編）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 新曜社	5. 総ページ数 344
3. 書名 『あふりこ フィクションの重奏遍在するアフリカ』	

1. 著者名 川瀬慈	4. 発行年 2018年
2. 出版社 世界思想社	5. 総ページ数 204
3. 書名 ストリートの精霊たち	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>国立民族学博物館オンラインジャーナルTRAJECTORIA (編集長:川瀬慈、2019～現在に至る) https://trajectoria.minpaku.ac.jp/ 川瀬慈 映像人類学研究活動紹介ホームページ http://www.itsushikawase.com/japanese/ 映像人類学研究会Anthro-Film Laboratory (主宰:川瀬慈、2012～現在に至る) http://www.itsushikawase.com/anthro-film_lab/ trajectoria (川瀬が編集長を務めるメルメディア審査付きジャーナル) https://trajectoria.minpaku.ac.jp/ anthro-film laboratory (川瀬が主宰する映像人類学研究会) http://www.itsushikawase.com/anthro-film_lab/ 川瀬映像作品公式ホームページ http://www.itsushikawase.com/japanese/ 映像人類学研究 川瀬慈公式サイト http://www.itsushikawase.com/japanese/</p>
--

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------